

## 会 議 の 要 旨 ( 議 事 録 )

会議の名称	平成 27 年度第 1 回勝尾城筑紫氏遺跡保存整備委員会		
開催日時	平成 27 年 8 月 3 日(月) 13:30～16:30	開催場所	鳥栖市役所 2 階第 1 会議室
出席者数	委員 8 人(欠席 1 人) 事務局 5 人	傍聴人数	0 人
議 題	(1) 平成 26 年度の事業報告 (2) 平成 27 年度の事業計画 (葛籠城跡重要遺跡確認調査について)		
配布資料	平成 27 年度第 1 回勝尾城筑紫氏遺跡保存整備委員会資料		
所 管 課	(課名) 生涯学習課 (電話番号) 85-3695		

## 1. あいさつ

生涯学習課長あいさつ  
教育長あいさつ

## 2 議 題

## (1) 平成 26 年度の事業報告

【委員】見学会の参加人数の推移は？

【事務局】2 年前くらいから春の見学会（勝尾城方面）の参加者が減少傾向である。見学コースの距離（約 5 時間半）が長くなったことが 1 つの要因とも考えられることから、今年度より通常コースと短縮コースを設定した。

【委員】リピーターと初参加者との割合はどうか。また参加者はどこから来られているか。

【事務局】約 7 割の方が初参加である。また市内の方が約 5 割、県内が 2 割、県外（福岡）が 2 割、その他が 1 割である。その他には東京より参加されている方がいる。

【委員】史跡見学会にあたっては、リピーターの存在が重要であり、その手立てを行うことが大事であるとする。

【委員】市内の学校において勝尾城について何か行っているか。

【事務局】小学校の出前授業で、勝尾城の歴史について紹介している。ただ、現地見学については勝尾城の場合は、丸 1 日のコースになってしまうため、授業との兼ね合いで非常に厳しいと思われる。

【委員】歴史の講演依頼をよく受けるが、依頼される時代は古代が多く、

中世（勝尾城の時代）は少ない。例えば、基山町の特別史跡基肆城跡では、生涯学習、学校教育、文化財部局と一体となって取組んでいる。また以前に青年会議所主催で親子対象の勝尾城をテーマとした現地見学を開催したことがある。

【委員】小学生に勝尾城を見学させようとする場合は、トイレは必要不可欠で非常に重要な問題である。トイレが整備されないと、今後、来訪者の数は増えていかない。トイレの整備については整備事業の全体計画の中で、関連部署と分担を決めて進めていく必要がある。

【事務局】今年から鳥栖市の小学5年生を対象にした授業で、教科日本語をスタートさせた。その中で鳥栖市の紹介として勝尾城も取り上げている。

（2）平成27年度の事業計画について（葛籠城跡重要遺跡確認調査）

【事務局】調査概要を説明

【委員】確認調査より戦国期以降の新しい時期の遺物が認められていないことから考えると、この溝跡（流路？）は、城の時期に掘削され、埋没して廃絶された跡と考えてよい。ここは地形上、水（排水）が集まる場所であり、空堀の土塁が走っているが、途中で土塁が切れている部分がある。この部分は本来、開いていた可能性もある。トレンチ6の西側の南に延びている土塁状のものは、地山整形されており、その位置からしても、城郭遺構であることは間違いないと考える。遺構の性格については、遮断のための土塁なのか、通路のためのものか、通用口的な出入り口なのか、或いは、屈曲させて防御を高めている可能性も考えられるので、この部分については、もう少しトレンチを設定するか拡張した方がよい。

【事務局】前回の委員会で、先生方から北側の流れ込んだところについては、自然に崩壊したものか、人工的などところを確認すべきという御指導をいただいたが、この部分は地権者との関係で、立ち入れない事情がある。今回の調査目的は、過去の調査で漏れている上に、整備基本計画の動線の1つに考えている場所のため、事前に把握する必要がある。

葛籠城の整備は、大きく改変をしないで、自然を活かした里山にもどすことが基本である。そのため、一部土塁の復元などは、文化庁の指導で、整備の実施計画を策定した後に整備を行う年度に発掘調査を行うこととなった。そのため、整備の目的の調査とは切り離していくことになった。

【委員】整備基本計画の発掘調査の位置付けは変わるのか、この谷の部分も良いと思うが全体像は把握できない、性格が分からないと整備できないのではないのか。

【委員】整備基本計画では、葛籠城を31年度に整備しますとなっているこの谷がどのように使われていたのか。利用者のための歩行者動線を設定することが良いのか、悪いのかの使い方を先に調べるために現在確認調査を行っていると思っている。全体像が分からないため、整備にかかれない事態になり、整備基本計画を立てて、初期の段階で止まってしまうことになりかねない。市教育委員会の考えをうかがいたい。

【事務局】葛籠城の整備は簡潔に述べると環境整備である。不要な木竹を除去して、元の里山の環境に近い形に戻していくことが整備の方針であるので、例えば吉野ヶ里遺跡のような復元的な整備は行わないで、自然と親しみながら散策できるような整備を目指す。

【委員】今回の葛籠城の整備は、第1次仮整備でまず動線についてやっていこうという理解をしていた。完全に調査するならば、相当な時間を要する。整備が進んで行かなくなる。

【事務局】整備工事の実施の際に、例えば土塁が崩壊している個所については、整備事業に伴う発掘調査を実施して、その状況把握を行い修復等の措置を図るので、遺跡の範囲や遺構の解明については基本的に行わない。

【委員】葛籠城の整備は大きく手を加えないという方針であるが、史跡を効果的に見せることができるのか。本来の通路はどうだったのかについては触れていない。そのため動線を引くにしてもどこに引くかは、見えてこない。いい加減に引くと誤解を招くし、史跡の破壊に繋がってくる。

【委員】地元の意見としては、葛籠城は近く、昔は遊び場になっていた場所であったことから、早い時期に目に見える形で整備ができることを期待している。

【終了】